

第4回 令和8年4月22日

(スポーツ、文化、観光、交通、地域づくり、多文化共生分野)

(公益財団法人佐賀県スポーツ協会)

- バスケットボールはレフリーや興行ディレクターの人材不足等が課題。また、地域経済にどれだけ波及させていけるかという点も重要。SSP 構想の中でも特に「支える」「稼ぐ」という部分について県と一緒に取り組んでいきたい。

(佐賀県スポーツ推進委員協議会)

- 女性や働く中高年の運動が少ないことが課題。週1回は運動できるよう、ノー残業デーなど運動に取り組みやすい環境づくりが必要。
- 競技の指導はボランティアでは続かない。指導者の賃金・報酬体系を作っていく必要がある。

(佐賀県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会)

- 中学校の部活は地域展開が進む中、子どもたちが放課後どこで誰とどのように関わるかが重要。スポーツは人と人をつなぎ、地域の絆を深める力があり、地域コミュニティの核となる。現場の悩みや課題を共有し、一つ一つ解決していきたい。スポーツを通じて誰もが関わり合い、笑顔あふれる佐賀県となるよう頑張っていきたい。

(一般社団法人佐賀県パラスポーツ協会)

- 障害のある人にスポーツをどう楽しんでもいただくか、そして日常生活の糧になり、楽しく生活できるようにできればとの思いで活動を進めている。
- 様々な障害がある中で、心身に悩みがある場合、なかなか表に出てこないため、そういう人たちにスポーツを通して何とか解決できないかを悩んでいる。

(佐賀県パラスポーツ指導者協議会)

- SAGA2024 きっかけにパラスポーツへの関心が非常に高まった。昨年からSAGA パラスポを開催していただき、佐賀県のみならず全国のパラアスリートから喜ばれている。今年は競技数を増やしてもらい感謝している。
- 特別支援学校では生徒それぞれが好きなスポーツに取り組んでいるが、卒業後は競技団体に所属していない場合、単独での移動や情報入手が難しく、スポーツを続けることが困難。身近な場所で気軽に参加できるスポーツ教室やイベント等があれば、卒業後もスポーツに取り組めると思う。
- SSP 構想はもちろん、さがすたいるも推進して、佐賀から始まる共生社会の実現に向けて、関係各所が連携し、新しい時代を切り拓いていきたい。

(JCHO 佐賀中部病院婦人科 女性アスリート外来担当医)

- これまで部活動指導者や先生等に対し、女性アスリートの健康管理に関する研修会を行ってきたことで認識は徐々に広まってきているが、学校の先生は異動があるので、この活動を持続可能なものとしていく必要がある。
- 部活動の地域移行はアスリートの健康支援を充実させる大きな機会。指導者の多様化や医療職との連携、トレーナーなど専門人材の活用が可能になると思う。全てのアスリートが安心してスポーツに取り組める環境整備について、更なる持続可能な取組を検討いただきたい。

(公益財団法人佐賀県芸術文化協会)

- 社会状況の変化、芸術文化の多様化、コロナ禍の活動の窒息症候から、芸術文化活動を担う団体・個人にとって様々な困難な状況が生じている。地域における芸術文化活動の支援とその活性化策を模索している。芸術文化活動の自律性はもとより、より一層の指導・支援をお願いしたい。

(医療法人清明会障害福祉サービス事業所 PICFA)

- 福祉の前提をずらす必要がある。福祉は守られるものと思われがちだが、障害がある方が生み出していけるものを模索し、その人たちが社会に出て価値を生み出せるようにしたい。

- 福祉と産業の接続ができればいいと思う。発注と受注だけの関係でなく、一緒に価値を作り、その価値を企業の皆さんに持ち上げてもらえるようにしたい。
- 福祉施設は閉じずに開放して知ってもらえる機会を作ることが大切。多様な人が役割を持ち、何かと関係していくことに価値を見いだしていけるようになると福祉が明るくなり関わる人が増えると思う。福祉の人たちが未来に希望が持てるようになるとよい。
- 福祉は誰もが持っている幸せの権利だと思う。それを全うするまでの社会の可能性を広げる、福祉は装置だと思う。色々な人たちと関係性を取りながら、福祉がもう少し広がっていけばと思う。

（一般社団法人佐賀県文化観光連盟）

- 今ある観光資源を磨き上げ、効果的に情報発信していくことが重要。県民が地元の良さを再認識し、自然と口コミで広げていけるように、県民の日や県民割りを実施することは有効であると思う。
- 外国人は地名ではなく、食べられるものや体験できるものなど中身を見て行き先を決める。こうした視点を踏まえ、情報発信に注力することが重要。
- 県民の皆さんが観光で稼ぐという視点を十分に持っていない可能性がある。今後、県が観光にどの程度力を入れていくのか指標があれば分かりやすい。

（佐賀県旅館ホテル生活衛生同業組合）

- 観光客数は増加しているが、旅行消費単価は伸び悩んでいる。観光客を増やすよりも、消費単価を引き上げるほうが現実的かつ効果的。朝や夜にイベントを実施し宿泊を促すなど滞在型観光の推進が必要。
- 佐賀県は温泉・食・文化が揃っており、滞在していただいても十分に満足してもらえると思う。旅館としては価格ではなく価値で競争していきたい。
- 官民でのデータ共有が必要。宿泊単価、観光客数、宿泊者数、平均滞在時間、観光消費額、観光関係の雇用数を官民で共有し、施策の効果も見ながら、改善につなげていくことが望ましい。

（一般社団法人日本旅行業協会九州支部佐賀県地区委員会）

- 佐賀県には歴史、文化、食など本物の地域資源がある。こうした県の強みを活かし、観光客の満足度や滞在日数、再訪率を意識した施策が必要。点在する魅力のストーリー性を意識してつなぎ合わせ、滞在型・周遊型の観光商品を造成していくことが大切。
- インバウンドについても、目的を持った高付加価値型の誘客が佐賀県には適している。職人や生産者との出会い、地域の暮らしに触れる体験というものはどこにもなく佐賀ならではの強み。地域の日常、大切にしていることに旅行者が参加する形をつくっていくことが重要。いろんなプレイヤーが連携して長期的にファンを増やしていくという視点が大切。

（一般社団法人佐賀県バス協会）

- バス業界は乗務員不足と燃料高が課題。60歳以上が3割。人材確保に努めており、少しずつ若い人が入ってきている。これからも採用に力を入れていきたい。
- モーダルミックスの実証実験については、市町から「もう少し延ばしてほしい」「通勤定期利用者にも適用できないか」などの意見もある。全県的に調べてみる価値があるのではないかと思う。
- 停留所のバス位置情報と九州 MaaS を連携できれば、観光・飲食・宿泊等の情報を知ることができてよいと思う。ぜひ検討いただきたい。

（一般社団法人佐賀県タクシー協会）

- タクシー業界も人手不足と燃料高が課題。コロナ禍以降、夜のお客さんは激減し、今では昼間のお年寄りが主な利用者。
- 市町のタクシーに類似したサービスは運賃が非常に安く、そのエリアの収入はかなり落ち込んでいる。子育てタクシー利用券が一番望む形。利用者に直接利用券が届けば、ほぼ真水のまま受け取れる。民業圧迫とならないよう、タクシー事業者としっかり協議して施策を検討いただきたい。

（佐賀県旅客船協会）

- 佐賀県では7航路すべてを民間事業者が行政支援を受けて運航している。時代が変わってきているので、将来的には財政的支援だけでなく、自治体と一緒にやってやるような体制が必要になるのではないかと思います。
- 知事の施政方針演説で「過去の延長線上には佐賀の飛躍はない」とあるが、延長線上にも過去の経験は必要だと思う。

（佐賀LGBTs支援団体 SOiGIEs）

- パートナシップ宣誓制度や性の多様性ガイドブックなど県の支援に感謝。親世代がもつ価値観に苦しめられたり、テレビやネット上で笑い者にされたりで苦しんでいる人は増え続けている。そのような人たちへの支援を続けたい。宣誓制度は周知が十分とは言えないので、一緒に広めていきたい。

（〇〇な障がい者の会）

- さがすたいるの取組が着実に進んでいることを実感している。これから佐賀を担っていく子どもたちに対して、多様性も含めて伝えていくことは、社会変化を促す上でとても重要。次期計画の中でも、さがすたいるの推進をお願いしたい。

（一般社団法人佐賀県地域おこし協力隊ネットワーク）

- 県内に様々なジャンルの地域おこし協力隊がいることを知ってもらいたい。県民だよりや佐賀新聞に月1回の紹介コーナーがあると嬉しい。協力隊と皆さんがつながることで地域活動が活発化し、地元の人では気づかない県外から来た人の視点で魅力を発信することにもつながると思う。

（多良岳を愛する会）

- 多良岳、佐賀県内の自然のすばらしさを子どもたちに伝えている。今後も森川海人や自発の地域づくりなど県のイベントがあれば参加したい。
- バルーナーズ、サガン鳥栖、久光スプリングスの選手に多良岳に来ていただいて、鹿島・太良の子どもたちと一緒に登って、夢を与えてほしい。

（サガつく！）

- 若者の小さな挑戦を見つけて地域の人や事業者とつなぐ、行政の部署を作ってほしい。バイタリティを持った若者もいるが、地域づくりは何から始めたらいいか分からずハードルが高い。地域づくりは雑談から始まるものであり、若者が行政と気軽に触れ合える場所があるといい。

（ありあけ海道盛り上げ隊）

- 有明沿岸の魅力を生かした観光と地域連携による持続的な発展が必要。有明海は日本一の干満差がある。こうした地域資源を活かし観光ルートとして整備することで、交流人口の増加が期待できるのではないかな。有明沿岸道路の早期完成や太良町までの延伸を切望しているが、素通りされる地域にならないように魅力あふれる地域づくりを県と一緒に活動していきたい。
- 民間団体同士でネットワークを組むことで、もっとできることが増えるのではないかと感じた。

（唐津里浜づくり推進協議会）

- グランブルの事業によって、イベント開催や海辺の整備が進んでいる。駐車場が整備されれば、唐津の海の価値はさらに上がると思う。マリンスポーツで訪れる人も多い。唐津はサーファーウィンドという地形特有の海の風が吹くので活かしていきたい。グランブルの継続と駐車場整備をお願いしたい。

（公益財団法人佐賀県国際交流協会）

- 佐賀の将来を描くときに「やさしい」のキーワードを入れてほしい。外国の方は「佐賀はやさしい」と言ってくれる。佐賀を好きになって、佐賀のやさしさが心に沁みている。今後も佐賀らしく外国人に一番やさしい県になってもらいたい。

（特定非営利活動法人地球市民の会）

- 県内には地域の中で動きたい、恩返ししたいと思っている人は多い。CSOがハブとなって、そうした人が活動できるようにサポートしていきたい。

（女性の活躍推進佐賀県会議）

- 県や市町の審議会、防災会議の男女比率を改善してほしい。専門性を有している女性がいけないとの理由で以前から改善していない審議会等がある。専門性を持つ人材が出てくるまで、学識経験者や経済界などほかの分野の女性を委員としてはどうか。島根県、徳島県は防災会議や審議会でも女性の割合が多い。他県から情報収集をして、良い手法を取り入れていただきたい。
- 佐賀県は政治分野などでロールモデルになる女性が少なく、自ら飛び込んでいかないと知識や情報を得にくい地域性は否めない。Woman EXPO のようにいろんな世界を知ったり触れたりする機会は佐賀県の財産になる。今後このような機会が増えていくことを期待。
- 女性もいつまでも支えてもらうことをよしとせず、能力を磨き、力をつけていく。佐賀県には、いち早く女性の活躍というものを取っ払ってもらい、男女関係なく能力発揮主義の県になってほしい。

（公益財団法人佐賀未来創造基金）

- CSO や地域づくり団体のプラットフォームに企業が入っていないので、企業や経済団体とも連携していきたい。また、市町を全部回っている中で、非常に CSO への意識の差を感じる。市町にも意識が広まっていけばと思う。
- CSO はまだまだ浸透していないところもある。県民環境部、地域交流部と連携していきたい。CSO も人づくりが大事。「地域に入って、地域と一緒にやっていく」という動きをつくっていきたい。